

IoT人材育成分科会での議論を踏まえた 具体的取り組み報告

18-2-19

1、技術体系とレベルの確立（例：基礎、中級、 上級）

- ・上記に基づく・テキストの発行（評価良好、上級はハンドアウト）
- ・検定試験の実施推進

合計受検者 2,591人（立ち上がりが鈍い）

2、講習会（セミナーの実施）

- ・試験に合わせての基礎講座・基礎受験対策講座
- ・中級講座・中級受験対策講座およびIoT入門を実施中
- ・15年度IoTビジネス実践セミナー(SSK協同)（延187名）
- ・17年中級講座4回、基礎4回（各東京、大阪、名古屋、福岡）
- ・初級講座&チャレンジセミナー（事例）4回
- ・18年計画 合計70回（札幌、東京、名古屋、大阪、福岡）

3、講師テキスト（講師の指導ガイド、基礎、 中級完成、事例集等も併用）

4、検定、講習を展開して判ったこと

- ・ 中小企業でのIoTの理解度、関心度は低い（商工会議所関連）集客が進みにくい => 浸透策要
- ・ 中小の受講者のレベルにばらつき大（対象者の絞り込み要）
- ・ 東京地区（神奈川、埼玉含む）に集中
- ・ ユーザよりサプライヤーの関心高い（通常初期段階の現象）
- ・ 感想：受講者から知識が偏っていたことを会得したの弁多し
- ・ 中級、基礎テキストともに評価は高い
（内容、項目、記述レベルのバランス、量）
- ・ IoT入門(セミナー) 受講者と受験者との相関は少（初級）

上記を講習体系、資料、講師体制に反映

（近い将来は業種、業務毎のIoTセミナーの展開検討要）

（例）流通業&物流IoT、インフラ保全IoT、農業IoT、建設IoT
品質向上IoT、生産効率IoT、営業効率IoT、コールセンターIoT

5、講習体系（体系図参照）

講習資料

- ・基礎、中級講座、受験対策は完成、
- ・実践講座 更新中
- ・入門講座 Draft完成
- ・補助資料 事例集（2種あり）
- ・IoT実践講座テキスト（作成予定～バラツキ防止）

6、課題

- ・入門講座対策（費用、講師）
- ・全講習の地方開催（費用、講師）
- ・対象者の的を絞る～IoT、AIへの誤解
業種、業務別への展開（課題：講師、資料）
- ・最新情報の盛り込み(更新対応)～組織化要
- ・推進体制（お願い：各総合通信局との連携開始）
- ・地方開催の採算化